

2014年(平成26年)9月21日(日曜日)

余滴

増毛山道の復元ルートを  
歩く体験トレッキングが人  
気を集めている。今年は何  
回のトレッキングを計画し  
たが、好評を受けて1回追  
加したほどだ。秋の体験トレッキ  
ングの定員も埋まり、募集を締め切っ  
た。よみがえった山道を歩き、貴重  
な文化遺産に触れながら歴史をさか  
のぼっていく。魅力的な探訪が、人  
気の理由なのだろう。

山道の会では実際に歩いたこと  
のない人にも山道の魅力  
を伝えようと、札幌

増毛山道は、江戸時  
代末期に交通の難所と  
された増毛、雄冬間を迂回するた  
め、増毛の漁場を請け負っていた商  
人伊達林右衛門が、幕府の命を受け  
て安政4年(1857年)に私費1  
500両余りを投じて開削した。現  
在の石狩市浜益区幌と増毛町別荘を  
結ぶ全長27・8<sup>キ</sup>。昭和20年ごろま  
で使われ、近年は草木に埋もれてい  
たが、NPO法人増毛山道の会が留  
萌振興局と協力し一部を復元した。

増毛山道の脇には、明治22年に設  
置され、ニシンの漁獲量などを伝え  
るために使用された電信線の電柱が  
残っているほか、郵便物の交換場所  
だった武好駅跡には捨てられたビ  
ール瓶などがそのまま残されてい  
る。山道を往来した人々の様子を想  
像しながら歩き、朽ち果てた遺構か  
ら時間の流れを体感できる。

代末期に交通の難所と  
された増毛、雄冬間を迂回するた  
め、増毛の漁場を請け負っていた商  
人伊達林右衛門が、幕府の命を受け  
て安政4年(1857年)に私費1  
500両余りを投じて開削した。現  
在の石狩市浜益区幌と増毛町別荘を  
結ぶ全長27・8<sup>キ</sup>。昭和20年ごろま  
で使われ、近年は草木に埋もれてい  
たが、NPO法人増毛山道の会が留  
萌振興局と協力し一部を復元した。

増毛山道は、ロマン誘う地域資源  
の一つ。今年には募集を締め切った  
が、トレッキングの回数が増え、よ  
り多くの人が参加できる体制が整え  
ば地域のPRにつながる。

増毛山道は、ロマン誘う地域資源  
の一つ。今年には募集を締め切った  
が、トレッキングの回数が増え、よ  
り多くの人が参加できる体制が整え  
ば地域のPRにつながる。